

## 第3回 水道事業の持続性向上有識者会議 議事要旨

### 1 開催日時

令和8年6月9日（火曜日）14時00分～16時00分

### 2 開催場所

大阪市中央公会堂 B1F 大会議室

### 3 出席者

（委員）伊藤座長、水上委員、中村委員、熊谷委員  
（水道局）松浦総務部長、江原工務部長、大塚企画担当部長、  
福井お客さまサービス担当部長、米澤企画課長、  
二神営業企画担当課長、木内計画課長

### 4 議題

- ① 有識者会議の今後の進め方（修正版）について
- ② 今後の増収策、経費削減策について
- ③ 今後のコスト削減策について
- ④ 電子申請・電子通知の取扱いについて
- ⑤ 新しい技術導入への取組について

### 5 議事要旨

#### 《事務局》

- ・ 事務局より、議題の項目について説明を行った。

#### 《有識者からの主な意見等》

##### （1）今後の増収策・経費削減策（コスト削減策）について

- ・ カーボンニュートラルや脱炭素化については、今後国からの要請も強まることが想定されるため、大阪市として将来的にどのような立場で取り組むのか、あらかじめ考え方を整理しておく必要がある。
- ・ 水道料金の使い道を市民に説明する際は、人件費や物件費といった区分ではなく、「水をつくる費用」「水を届ける費用」といった用途別で整理し、より分かりやすく示す工夫が必要である。
- ・ 将来の経営見通しや市民負担のあり方に関する議論を行うに当たっては、経営努力による増収・経費削減策と、物価・人件費の上昇など対応が困難な要素を切り分けて検討する必要がある。
- ・ 水道事業全般について効率化・合理化の余地があるものは、有識者会議の諮問の有無にかかわらず積極的に見直しを進めていただきたい。

## (2) 電子申請・電子通知の取扱いについて

- 水道事業における申請・通知の電子化については、社会全体の流れを踏まえても、利用者の利便性向上および業務効率化の観点から、基本的に推進していくべき方向である。
- 高齢者については、近年は電子申請に慣れている人が増えているが、画面設計の工夫等により配慮してほしい。
- 修繕など電話対応の方がなじむものもあるので、メリハリをつけるとよい。
- 電子化等による方法とそれ以外の方法とで価格に差をつける場合には、前者の方に割引を適用するなど、導入の仕方や見せ方に工夫が必要である。
- 電子化については、利用者の属性（事業者・一般市民）や利用頻度、手続の性質に応じて区分し、最初から一律に広げるのではなく、取り組みやすい領域から段階的に進めてはどうか。
- 電子化にはシステム更新等の継続的なコストが伴うことから、短期的な利便性だけでなく、中長期的な運用コストや社会的コストも踏まえて検討した方がよい。

## (3) 新しい技術導入への取組について

- 下水道分野におけるような、ニーズ把握から研究・実証・実装までを一体的に進める仕組みを参考にし、大阪市としての取組を検討してはどうか。
- 新技術導入を進めるに当たっては、まずは水道事業としての課題（ニーズ）を明確化し、どの分野でどのような技術が必要かを整理することが重要。
- 民間企業との連携に当たっては、契約制度などと整合を図る必要があるため、制度上の課題を整理し、透明性を確保しながら連携する方法を検討していくべきではないか。
- 新技術導入は単独事業体で完結させるのではなく、日本水道協会や他事業体などとの連携を通じて、広域的・横断的に進めることが有効ではないか。